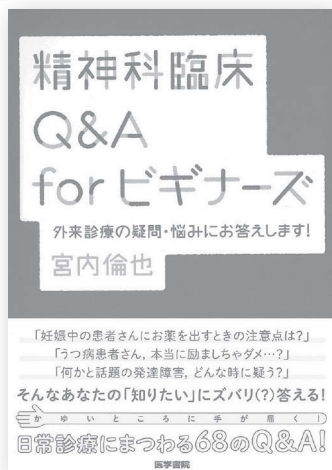




今月の特集関連本 ④



精神科臨床 Q&A for ビギナーズ

外来診療の疑問・悩みにお答えします！

宮内倫也＝著

本体 3,600 円＋税／A5 判・308 頁／医学書院／2016

「治療編①薬物療法」をご執筆の宮内倫也先生 (p.1182) による超入門書！

本特集に関連する Q に「そもそも精神療法とは何ですか？」「DSM は間違っているって言う人がいますけど…」「不安症や強迫症と診断する時に気をつけることは？」「ベンゾジアゼピン系の依存をつくらないためには？」「身体症状症と身体表現性障害の違いは？」などなど。総合診療医も知りたい、かゆいところに手が届く 68 の Q&A。



精神科の薬がわかる本

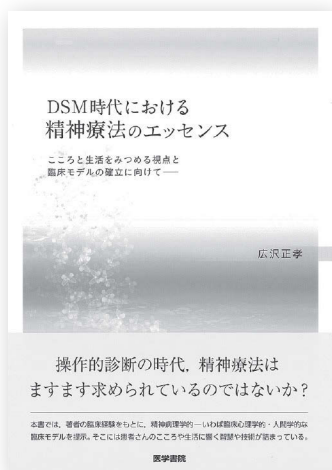
第3版

姫井昭男＝著

本体 2,000 円＋税／A5 判・236 頁／医学書院／2014

薬に頼り切るのではなく、使うべき時に適切に使うために――。

情報氾濫の時代だからこそ、正しい情報を伝えたい。その思いに貫かれた本書。分野を問わず、新薬への期待は大きく、過剰な期待によって「期待外れ」の心理も生まれやすい。メンタル障害の治療過程で、正しい知識と効果のイメージをもつために、精神科を専門としない医師をはじめ、「精神科の薬」に対して情報を求める人々に向けた 1 冊。



DSM 時代における精神療法のエッセンス

こころと生活をつつめる視点と臨床モデルの確立に向けて

広沢正孝＝著

本体 3,500 円＋税／B5 判・160 頁／医学書院／2016

「診断編①」をご執筆の野村総一郎先生いわく、精神科にコンサルテーションするか否かの分岐点の 1 つは、「自分で精神療法をできる技術と時間があるか」(p.1170)。

本書では、著者の臨床経験をもとに、うつ病、統合失調症、自閉症スペクトラム障害を対象に、精神病理学的・人間学的な臨床モデルを提示。

「治療編②精神療法」の今村弥生先生のご執筆 (p.1188) と、併せて読みたい。